

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日:2022年9月12日

所属学部／研究科・学科／専攻	情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学 バークレー校 現地言語: 英語
留学期間	2022年5月～2022年8月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年8月19日
明治大学卒業予定年	2025年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:      2学期:      3学期:      4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	45000
創立年	1,868

留学費用項目	現地通貨 (USD)	円	備考
授業料	6399	749347円	
宿舍費		780000円	
食費		0円	宿舍費、教養娯楽費の中にもめる
図書費	60	7800円	FILM45のCourse Reader 2冊
学用品費	0	0円	
携帯・インターネット費	45	5850円	Mint Mobile SIMを購入
現地交通費		30000円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		150000円	
被服費		0円	
医療費		0円	
保険費		30660円	形態:3か月
渡航旅費		300000円	
ビザ申請費		64359円	
雑費		16996円	残高証明書、サマーセッション前乗りのホテル
その他		円	
その他		円	
<b>合計</b>		<b>2,135,012円</b>	

## 渡航関連

<b>渡航経路</b>
往路 出発地:HND 目的地:SFO 経由地: 復路 出発地:LAX 目的地:HND 経由地:
<b>渡航費用</b>
①往復チケットを購入した場合 航空会社:JAL 料金:合計30万(25万+復路便の出発地を SFO から LAX に変更し5万)
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:
<b>航空券購入方法</b>
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:JAL 公式サイト) <input type="checkbox"/> その他( )

## 滞在形態関連

<b>1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:International House) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
<b>2)部屋の形態</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 )
<b>3)共有部分</b>
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
<b>4)住居を探した方法:</b>
留学報告書
<b>5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)</b>
International House は、明治大学からの学生や様々な国から来た学生と交流しやすい環境であった。個室を選択したため、交友関係を広げられるか当初不安であった。しかし、食堂や寮主催のイベントがあるので、個室のせいで友達が作りにくいということはないと感じる。国際寮であることから、個室を選ぶことで友達が作りにくいということはないので、自分の性格や好みに合わせてより良い選択肢を選ぶと良いと思う。

## 現地情報

<b>1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)</b>
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:新型コロナウイルス感染症に罹患し、寮の隔離部屋で安静)
<b>2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)</b>
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: )
<b>3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?</b>
Berkeley のメールで、犯罪等の情報の連絡が来るのを確認した。また、現地生の友人に具体的にどこが危険かを尋ねた。盗難等の犯罪には巻き込まれていない。
<b>4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)</b>
寮の WIFI で困ることはなかった。しかし、学外へ出かけるときは、現地 SIM が必要だと感じた。ソフトバンクのアメリカ放題のプランに加入している人もいた。私は、Mint Mobile の月 15ドルプランのプリペイド SIM を Amazon で現地調達した。
<b>5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)</b>
クレジットカードと持ってきた現金 400ドルで、工面した。
<b>6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。</b>
初めての留学で不安で、あらゆるものをスーツケースに詰めたが、ほとんど現地調達できると感じた。強いて言えば、ミールプランが限られている、かつ、日本食が恋しくなるかもしれないという意味で、パックご飯やみそ汁を多めに持参してもいいかもしれない。
<b>7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)</b>
すべてクレジットカードで、授業料、宿泊費をそれぞれ、2月、3月に支払った。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) ・履修の制限はありましたか?   ない	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
FILM 10: FILM HISTORY AND FORM	フィルムの歴史と形態
科目設置学部・研究科	Department of Film and Media
履修期間	Session A
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が3回
担当教授	Dolores McElory
授業内容	映画史を学び、19世紀、20世紀の映画が何を意図して、また、どのような芸術的、もしくは、社会的価値を結びついて表象されてきたかを学ぶ。映画そのものがどのようにできたかなどの映画史に加えて、Film studies の用語を学びながら、the Cheat、the Jazz singer や 42nd street など実際の映画(主に 20 世紀)を分析し、ディスカッションする。
試験・課題など	Attendance 15% Journals 25% Sequene Analysis 15% Summary and Response 20% Final Exam 25%  毎回約 40 ページのリーディングをして、それを講義の中で復習し、実際にそれにまつわる(その論文が分析する)映画を見る。この講義内で、教授が質問に対する答えを求めたり、映画の分析を講義内容と結びつけて分析するよう要求したりするので、そこで Attendance の点が入る。また、この毎回のリーディング課題の内、5 回分を Journal として提出しなければならない。論文を読んだうえで、要約とその内容をこれまでに習った内容(論文、映画)と比較して 400 字程度でまとめるものだった。これを 5 回行った。また、初週に自分の担当の日が決まるので、その日のリーディングでは、Journals とは別に、要約とその論文に対して自分の意見を 1200 字程度で書く。 Sequence Analysis は中間テストで、講義で映画(‘Teddy’ Bears (Dir. William S. Porter, Edison, 1907)を見て、ミザンセーンや撮影技法に注目して 1 シーンごとに、ワークシートを記入する。このワークシートを用いながら 1300 字程度で、この映画を分析する。 Final Exam は、選択問題、穴埋め、A42 枚のエッセイ 2 問、A42 枚の映画分析(期末試験の間で 5 分程度の映画が提示される)の構成であった。対面 2 時間半、教科書は持ち込めなかった。
感想を自由記入	授業は 15 人程度の少人数で、日本人はおらず、現地生だけの授業だったのでとても不安でした。しかし、私の関心とマッチしている、また、映画自体も多くは無声映画であったこともあって、そこまで苦にならなかったのが幸いでした。とはいっても、ネイティブがしゃべる、「はい」英語のリスニング、さらにディスカッションにも苦戦しました。そのため、現地生や教授に相談して、録音の許可を取り、分からないことがあればクラスメイトに質問できるように助けていただきました。最終的には、録音を聞き直しノートにまとめるなど自学自習に加え、周囲のおかげで、ペーパーやディスカッションを成し遂げ、良い成績を取ることができました。オフィスアワーでは、授業内容だけでなく大学院進学についても親身になって相談に乗っていただいた、Dolores には心から感謝しています。 講義内容に関しては、古い映画を 1~2 時間見るという点で、退屈と思われるかもしれないが、この映画の分析を、現代の社会的事象にうまくつなげて説明して下さるので、興味を切らさず聞くことができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Film 45 Television Studies		テレビ研究	
科目設置学部・研究科	Department of Film and Media		
履修期間	Session D		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が3回		
担当教授	Emily West		
授業内容	アメリカの「テレビ」が、アメリカ人のアイデンティティをどのように形成し、再構成したかを学ぶ。特に、「テレビ」が 40 年代以降のアメリカ人のアイデンティティや家族像を、視聴者に、いかに「自然」に受け入れさせているかを、講義やテレビを実際に視聴したうえでディスカッションを通して、分析した。		
試験・課題など	<p>リーディングを毎回、70から100ページほど行う。 出席(10%)、ディスカッション貢献(20%)、ミッドターム(30%)、ファイナルプロジェクト草案(5%)、ファイナル原稿(5%)、ファイナルプロジェクト(30%)で評価される。</p> <p>中間では、上記の Sequence Analysis 同様、クラスで異なる 2 つのテレビエピソード(30 分くらいのエピソード)を視聴し、1 つ選んで分析する。 最終プロジェクトは 4 週目から始まる。まず、自分がこれまでのリーディングと深くかかわりがありそうなテレビシリーズを 1 シーズン(80 年代から今日まで)みて、最終プロジェクトでどのように分析するかをまとめる(草案)。そのフィードバックをもとに、図書館で文献をもう一つ、自分で調べる。この 2 つの文献を用いながら、自分の好きなエピソードを1つ、1500 字で分析する。</p>		
感想を自由記入	<p>初週にコロナウイルス感染症にかかり、オンラインで受けたので、授業の難易を理解していなかったもので、交換できないままこの授業を履修することになって、前半はずっと後悔していました。リーディングが膨大すぎて、翌日の授業までに完璧に読むことが難しかったし、50 ページ以上のスライドを復習して「ディスカッション貢献」しなければならないところに苦しみました。この授業のおかげで、Session D の休日のほとんどをこの授業に費やしました。しかも、最初の方は、そもそもキャラクターの英語のセリフの理解に苦しみ、授業で発言ができませんでした。実際に、3 回目の授業で、「The Star Trek」というテレビシリーズを 50 分くらい、クラスで見たのですが、本当に何を言ってるのか理解できなくて、授業後に半ベそをかきながら、教授にこの講義についていけないかもしれないと相談したほどです。</p> <p>しかし、教授に相談して、講義スタイルを復習しやすいようにスライドにきれいにまとめて、クラスウェブで提示してくれたり、テレビシリーズに字幕を付けてくれたりして、中盤からは、なんとかこの授業についていくことができました。このクラスも、英語が母国語の人ばかりで、レポートにだれよりも時間がかかるということが分かっていたので、できるだけ早く取り掛かり、分からないところはすぐに教授に相談しました。課題や授業に押しつぶされそうになりましたが、クラスの人に英語力で劣る分、それ以上に時間をかけることで、もっとよい評価を取ることができました。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
PSYCH 6 Stress and Coping		ストレス対処法	
科目設置学部・研究科	Department of Psychology		
履修期間	Session D		
単位数	2		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義 (チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が2回		
担当教授	Andres Martinez		
授業内容	ストレスの対象法を具体的で身近な例を用いながら、学ぶ。		
試験・課題など	リフレクションペーパーとテストを 2 回ずつ行う。		
感想を自由記入	講義に出席し、授業で使うスライドを理解することで、試験や課題をこなすことができた		

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

留学以前から、進学して興味のある学問、特に映画を学びたいと考えていたが、その気持ちが強くなりました。金銭面で難しい面があるため、未定としましたが、奨学金などを使って大学院進学できる手段を模索したいです。

進学を志すうえで、成績をしっかりとって、英語を頑張ろうと以前から意識していましたが、同時にそれ以外の活動も必要だと、同じ明治大学から留学している学生や教授から教わりました。どの業種、もしくは、学問が、より自分の興味を引くか見極めるという意味でも、インターンを含む課外活動も重要であるなど感じたので、これから頑張りたいと思います。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入して

ください。例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	入学
	8月～9月	留学をしたいと考えるようになる
	10月～12月	留学先を決める、出願、準備
留学開始年	1月～3月	1月～語学勉強 2月 履修登録、滞在先確保 3月 航空券購入
	4月～7月	4月 ビザ申請 5月 渡航
	8月～9月	サマーセッション終了、帰国
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

**留学体験記**

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

留学をどうして志すか、少なくとも自分の中で明確化することが大切ではないかと感じた一方で、その基本的な指針に必ずしも添わなければならないわけでもないと思いました。これについて記そうと思います。

留学をしたいと思った理由はいくつかありますが、特にこの留学先を選んだのは、入学当初にとった英語試験の点数で出願できたからというのは理由の一つです。この、出願条件がそれほど高いものではないということは、「留学をしたい」いかなる学生のニーズにも合っていると言えると思います。例えば、留学先でより専門知識を短期間で学びたいというニーズだけでなく、就活をしながらサマーセッションをしたり、この経験自体を就活の材料にしたり、あるいは、英語を学びながらたくさん社交活動をしたいというニーズも満たせます。どの理由が良いか悪いかというのではなくて、3 か月で終わる、かつ、出願条件が高くないサマーセッションにおいて、「留学をしたい」という動機は簡単に満たせます。さらにいえば、そのあまり、その動機のもっと深い部分、つまり、留学によって何を達成したいかを見失いやすくあるのかなと思います。この、留学の目的を自分の中でしっかり見出すことができれば、おのずと自分の留学先での行動指針が決まります。

しかし、同時に、必ずしもその「目的」に合わせて行動する必要はないのかなとも思います。自分は学問をより深めたいと思い、専門性が高い授業を取って、その授業のために時間を費やすというのを軸に考えていました。自分の好きな勉強を精一杯できるという意味で充実していましたが、寮のイベントや友人と遊びに行く楽しさを振り返ると、もっと社交的な活動にもフォーカスしてよかったと思っている部分もあります。言い換えれば、交流のおかげで、人と関わることで（日本人が外国人かは関係なしに）得られる知見や思考の大切さに気付くことができました。平たく言えば、人と関わることの純粋な楽しさを再発見できました。

ある程度「留学をしたい」という自分の中に目標軸を定めることは大切だと感じました。あとは、その軸を持ちながらも、行き当たりばったりの出会いを大切にすることもよいと思います。言い換えれば、留学の目的を見つけて、その指針を決めるのは必要であると思う一方で、それだけに近視眼的にしがみつくと、留学経験の視野を狭めると思います。「留学をしたい」という気持ちの中に自分の留学の軸を見つけたら、あとは「留学を楽しむぞ」と意気込んで、新しい人や考えとの偶然な出会いを大切にしたいです。この報告書を見ている、留学を検討している学生が、素敵な夏を過ごせるようにお祈りしています。